

八丈町 News Letter From
Hachijyo Town Assembly

議会だより

No.

162

2012.5.25

議会だよりは八丈町のホームページでもご覧いただけます
http://www.town.hachijo.tokyo.jp/gikai/gikai_dayori/gikai_dayori.html



八丈町汚泥再生処理センター竣工式

目次

- 第1回八丈町定例議会 2
- 一般質問 3
- 本会議の質疑から 10

第1回八丈町定例議会

八丈島の資源を活かせ！

横断的な取り組みと、情報共有を

町の基幹産業である観光行政については、一般質問、予算審議において毎回のよう議論されていますが、今回も様々な角度からの意見が交わされました。これは観光行政が八丈島にとって重要である一方で、解決されていない課題が多いことが背景にあると考えられます。観光の島を標榜するのであれば、今以上の「戦略的な」施策が望まれますし、議会としてもそれを牽引していく必要があります。今回の議論から浮かび上がった課題を整理しておきます。

望まれる町組織の横断的な協働を

町執行部も八丈島の観光資源は「島全体」すなわち、自然、歴史、文化、スポーツ、人そのものであるとの認識をもっているのであれば、予算背景にとらわれることなく、それに関わる産業観光課・教育課の垣根を取り払ったPTによる取り組みを成功させると同時に、時代を先取りした組織のありかたを検討するべき時期に来ていると考えます。

行政の行うべき業務は

建築確認がとれなかったために設置できなかったバ イオマストイレが問題とな

りましたが、許認可事務や予算の獲得にこそ力を注ぐのが行政の重要な役割です。執行部が観光イベントの準備に奔走せざるを得ない現在のよう状況も、事業が進まない一因ではないでしょうか。

町観光商工係・観光振興実行委員会・観光協会の役割分担の明確化

長年にわたる議論が行われているにも関わらず、解決されていない課題です。その原因を十分に把握し、めざすべき組織のあり方、役割分担を明確にし、とにかく動いていかなければ問題は解決していきません。特に実行委員会についてはこのまま存続するので

あれば、実践的な観光戦略をたてる組織としての改革が望まれます。

臨機応変なアクションプランの検討

観光アクションプランは平成18年度の産業活性化構想を元にして策定されていますが、時代背景や経済状況の変化に即した柔軟な対応が十分でないのが現状で

す。平成24年度は本プラン3の最終年度である25年度の事業を決定していきま す。これまでの総括をしながら今後のあり方を検討していかなければなりません。

情報の共有化を

今回の大潟浦園地の電柱設置問題（10ページ参照）では、要望の内容や具体的な対応が関係機



八形山フリージア畑

な対応が関係機 関同士で把握さ れていなかった ために、海岸沿 いの美しい景観 に電柱が立つと いう結果になっ てしまいました。この件は、 必要な情報や的確な役割分担が なされていない ことに起因して います。町づく りという観点か らも情報の共有 化や観光資源の 保全のためのガ イドラインが必 要です。

「イターン」事業を実施して人口増加を目指す考えは

答 施策、民間と連携すべき部分を検討しながら取り組む



山下 崇 議員

◆ 所要時間 27分

質 問 少子高齢化、人口減少は八丈島だけの問題ではなく、すでに日本全体の問題である。昨年の東日本大震災以降被災地だけでなく、首都圏でも人口流動が起きている。なにより安心、安全な地域への移動が進み首都直下地震への備えから、ますますこの動きは加速するものと思われる。この動きの受け皿となり得る自治体では、すでに組織的に対応している。八丈町にあっても、被災者支援の枠組みを設け被災者の受け入れ、就労斡旋を行って

る。この流れを拡大する方向で、いわゆるイターン事業を実施して人口増加を目指す考えはないか伺いたい。

答 佐々木 眞理 企画財政課長

八丈町の人口動態は、平成32年度には7千人、平成42年度には6千人弱になると報告されている。町の本構想では平成32年時点でも現在の8千人台を維持するとしているが、これには相当の努力が必要である。現在、震災からの避難者受け入れは3月現在で10世帯30名である。いわゆるイターンについても、就労先や住宅の問題など解決しなければならぬ問題もあるものの、農業担い手研修事業では3人の新規就農者を育成するなど

成果を出しつつある。商工会が実施する「婚活事業」に対しても広い意味でイターン、人口増加策として予算措置もしている。また、閉校が予定されている末吉小学校についても雇用の場が創出できる施設として検討していきたい。

以上のことから町でやるべき施策、民間と連携すべき部分を検討しながら人口増加策に取り組んでいく。



観光振興実行委員会改定の進捗状況は

答 実行委員会の規約を改正してより実行力のある組織となるようになっている

質 問 昨年、観光振興実行委員会の存在意義について質問した。答弁では、実施する事業の責任の所在は実行委員会にあり「予算の組み替えにも柔軟に対応

できる組織を作ることによって、参加人数や趣旨の点から検討の結果、廃止した。・マリンスペース（サーフィン大会・つり2大会・浜遊び）については次年度に経過観察を検討している。・花と緑のフェスタとして1月から3月に行っていた一連のイベント（ロードレース、芸能文化交流会、ヘルシーフェスタと議会からも見直しを迫られているフリージアまつり）のうち芸能文化交流会とヘルシーフェスタについては、島内イベントの要素が強いため形を変えて実施する。また、フリージアまつりに統合して3会場同時実施することでより重厚なまつりとなるよう見直し検討を行っている。

実行委員会の規約は改正してより実行力のある組織となるように、今までもあり活動していなかった各部会の活動も月1回行うこととするなど、より意義のある組織にしていきたい。

間伐材を利用した宇喜多秀家記念館設置を

答 歴史民俗資料館内にコーナーを設ける



山下松邦議員

◆所要時間 11分

質問 ① 関西方面からのツアー客が増加しているが、町長を筆頭に岡山県の宇喜多秀家関係をはじめ、関西方面各所に挨拶に行く考えは。② 宇喜多秀家に関するガイドブック作成を。③ 町の間伐材などを利用した記念館設置を。④ 久福松植樹祭で岡山県山陽新聞の人見先生や、宇喜多秀家研究グループの史談会メンバーと交流を結んだ作家が、宇喜多秀家の小説を書き終え発刊に向かっている。この小説を観光集客に活用する考えは。

答 奥山拓産業観光課長

① 企業課運輸係の職員3名で11月、および1月に関西の旅行会社を訪問し、宣伝・PRを行った。新年度、観光振興実行委員会で検討し関西方面への挨拶を兼ねて訪問を実施していくよう検討する。② 宇喜多秀家公のPRができるものを作成するように検討する。③ 歴史民俗資料館の基本計画策定中であり、その中で単独建設するよりは館内にコーナーを設ける考えである。④ 著作権、作家の意向があると思うので慎重に対応し時期が来たら議会に相談したい。

樫立中之郷線道路の末吉までの延長を

答 前向きに検討する

質問 今の時代、想定

外の地震・津波がどこで起きてもおかしくない。名古屋の展望とその脇を通る都道215八丈循環線間は非常に狭い。道路が遮断すれば

末吉への行き来ができなくなる。樫立・ふれあいの湯から、中之郷・国交省東京航空局まで、樫立中之郷線道路工事が進行中だが、末吉まで延長を望む。

答 八洲進建設課長

都道の被災による末吉地域の孤立化を解消するためルートとして、前向きに検討したい。

墓地に適した町有地譲渡と無縁墓地を町営に

答 将来的に検討する

質問 墓地探しの必要

に迫られた人が多くいる。墓地に適した1、2区画の町有地譲渡を。また、無縁墓地を町営にすべきである。

答 佐藤真一 住民課長

現時点でご提案のような大規模小規模を問わず、新たに町営墓地の供給に取り組むことを想定した場合、需要の問題、相応の負担額を既存の墓地を含めて検討することが必要となる。場所の選定は、住民ニーズに応え、景観に配慮し、周辺地主の理解を得られる場所、および既存の島内各所に点在する墓地との整合を図ることも必要。無縁仏については、八丈町が行政として最終的に関わり現時点では問題は生じていないが、将来的にはそのような問題を含め検討する。



樫立中之郷線

24時間対応の定期巡回・随時対応サービス事業の導入を

答 現行サービスを担保することが重要、提案は今後の課題とした



奥山 幸子 議員

◆所要時間 33分

質問 第5期の八丈町介護保険事業計画によれば、認知症支援策の充実や、医療と介護の連携、生活支援など町独自の施策の提案があった。一方、介護保険料は基準額で500円上がったが、この額はいわば自然増による増額であり、町として新たな事業は行わないということだ。今後の高齢者の実情を考えれば、24時間対応のサービスを導入することが、将来の町と住民の負担軽減につながると思う。

答 笹本 重喜 健康課長

今の介護サービスを担保することが大事なことだ。「在宅高齢者マツサージ等支援事業」を独自の新規事業として始める。提案のサービスは都市型の「単身・重度の要介護者」が住み慣れた地域で生活が継続できるように考えられたもので、八丈町で導入するには課題が多い。まず、ニーズがあるかどうか調査すべきだし、訪問介護や看護でかなりの人数のスタッフ確保が必要となること、オペレーターも必要となり、事業としてのリスクがあり現時点では困難と考える。

再質問

導入は困難だというが、既存の施設と仕組みを利用すれば、可能だと思う。養和会には宿直制度

があるのでオペレーター機能ができる。スタッフは町がヘルパーを養成するなど対策はたてられるはずだ。

答 健康課長

平成24年度から始まる事業であり、全国的に実施する所が少ない状況なので、他の自治体の動向を見ながら研究を進めていく。夜の介護については、看護職員が少ない中で看護との連携を図ることが重要な課題である。

八丈方言の伝承に役立つさらなる町の施策を

答 産業観光課、シルバークル 人材と相談しながら検討していく

質問

町は、学校教育の中で方言を継承する取り組みを進め、様々な活動をおこなっているが、さらに地域への広がりや観光への活用を進めるべきだと考える。

①ふるさと村を活用して八丈方言による民話伝承の

機会をつくる。②八丈方言による観光ガイド・地域ボランティアの育成について町の考えは。

答 福田 高峰 教育課長

平成24年度から研究指定校制度をはじめ、指定校で「八丈方言学習の推進」のテーマで、劇団「かぶつ」の上演、島ことばの「川柳」づくりを行ない、「島ことばかるた」による交流に取り組む。方言講座もひらく。①、②の提案については、産業観光課、シルバークルセンターと相談しながら検討していきたい。



島ことばかるた

再生可能エネルギー開発・利用に取り組む町の姿勢について

答 絶好の機会なのでぜひ実現させたい

質問

町は、波力発電開発に関するモデル事業に取り組む姿勢を明らかにした。東京電力管内では唯一地熱発電を行っている八丈島のさらなるイメージアップを図ってほしい。

①モデル事業の計画の経緯、規模、実現可能性は。②ふれあい牧場の風力発電の今後は。

答 菊池 良 企画財政課主幹

①国土交通省より説明を受けた。海洋エネルギーによる発電技術の実験場所として選ばれたが、その規模や実施計画についてはまだ策定されていない。クリーンアイランド八丈を全国に発信する絶好の機会なのでぜひ実現させたい。②風力発電事業の今後の予定はない。

防災会議に女性メンバーの参加を

答 専門委員として女性の意見を取り入れていく



水野佳子議員

◆所要時間 19分

質問 ①首都直下型地震が心配される中、震災後具体的な防災対策の見直しを図ったか。②防災会議は年何回開催されているか。現在男性のみで構成されているメンバーに女性を加えてほしい。女性の視線での防災マニュアル策定を。③物資備蓄に粉ミルク、紙おむつなど、女性や高齢者の視線からの追加を。

答 山越 整 総務課長
①平成24年度に「わが家の防災対策」の津波の部分の見直しを図りたい。同時

3年間で災害時の要援護者の体制整備事業を行う予定。要援護者の居住地を把握し地図情報に載せ、その方々への声掛け、避難誘導方法を考える事業である。最終年度にあたる平成24年度で最後の検討に着手したい。

に「八丈町地域防災計画」の見直しを行う。②通常10月5日の防災訓練前のタイミングで1回から2回、「八丈町地域防災計画」の文言の修正を含め召集、条例と運営規定に基づき組織されている。その中に専門委員の方々のご意見を聞く事があると規定されているので、その部分で女性の意見を聞く事は可能と考える。そのような事でご意見を賜りたい。③自分の家庭で日頃から防災用品を備えて頂き、万が一の時に備えてもらうことが基本と考える。個々の事情に合わせ、各家庭での備えをお願いしたい。

再質問 デイホームからの避難誘導方法は。
答 総務課長

八丈島芸能文化交流会 継続を

答 廃止になったことは実施関係機関団体の方と合意している

質問 八丈島芸能文化交流会は平成18年から7年間続いたイベントだが、惜しまれながら今年で終了となった。関係者や参加者、観客からも存続の要望がある。地域に残る伝統芸能を八丈島から全国に発信できる唯一の機会だと思いが、継続の考えはないか。

答 奥山 拓 産業観光課長
観光振興実行委員会のイベント部会で見直し検証作業を進める上で、「島外ゲ

ストを招致し、八丈島の郷土芸能と合わせ島民に見てもらおう」主旨のイベントであれば、観光振興、集客の面からは厳しいのではとのこと。平成24年度予算においては廃止となった。このことは実施関係機関団体の方とも合意している。島外ゲストを招致しての交流会の形式は、来年度完成する集会施設の運営活用で、島内文化団体の方を主体とした取り組みができないかどうかお願いしている。



石川駒踊り

花いっぱい運動の推進を

答 ハイビスカスを主体とした、木で開花する樹種を進める

質問 ここ数年、フリージアまつりのイベントは各方面から見直しの意見が出ている。八丈島の春を告げる最大の目玉となっているが、訪れた観光客から不評の声が多い。季節になると全国各地で話題になるが、一面に敷き詰められる菜の花やひまわり、コスモスなどの花いっぱい運動を積極的に進めては。

答 奥山 拓 産業観光課長
管理の点からも、長年島の自然に適応してきた樹種を選定する方が望ましいと考える。観光客の方も自転車や歩いている方を多く見受けるので、都道・町道に植栽されているハイビスカスを主体とし、木で開花するような樹種で「花いっぱい運動」を推進していく。

八丈島における学校給食の安全性を高めよ

答 検査機器を導入するのではなく、サンプルを送り放射線検査結果を公表する



岩崎 由美 議員

◆所要時間 45分

質問 震災による原発事故により、内部被曝による子どもたちの健康被害に對して、自治体として責任持って対処することが急務。八丈町の大切な子どもたちの健康を守るためには、学校・保育園の給食の安全を確保することが重要であると考えるが、これについて伺う。

①八丈町の学校給食における島内産の食材の自給率は。②学校給食に使用される食品の安全性は、具体的に流通のどの時点で確認しているのか。③八丈島の子

どもたちの健康を守るためには、産地の確認だけでは不十分。町独自に放射線量を測定し安全性を確認する必要があると考えるが、測定器の導入については検討できないか。

答 福田高峰 教育課長

①平成23年4月～24年1月のデータより。米と牛乳を除いて計算すると、島内産物の割合は総重量の13%である。②出荷制限措置のとられていない地域を確認し、危険性が低いと思われる産地の食材を優先して選定し、その品目についての放射能データを確認した上で購入している。③都の実施する検査事



業に参加する。町独自で検査機器を購入する考えはない。3月5日分の給食について検査を実施したところ、放射性物質は不検出だった。12日分も検査を実施する。

再質問 ①産地とデータを

を確認するということであるが、データの確認は流通のどの課程で行われているか。②独自の検査機器は導入しないとのこと。本来であれば、調理する以前に食材の調査をするべきであるが、どのくらいの頻度で検査を行うか。

答 教育課長

①それぞれが出荷する場所

再々質問

島内産13%をもっと上げる事は可能か。

答 教育課長

島内産自給率については上げていきたい。

答 奥山拓 産業観光課長

アシタバ以外の野菜については契約栽培ということになる。農協、農家との協議が必要であるので検討事項としたい。

資源を生かした観光戦略を

答

三者の役割分担を見直し、アクションプランについても修正していく

質問 観光に携わる組織「町観光係」「観光振興実行委員会」「観光協会」

の三者の役割分担や組織のあり方についてはかねてから課題が指摘されている。

①そもそも、八丈島の観光資源とは何であるか。②行政側として、現在の組織における課題は何であると考えるか。③アクションプランは実践的か。

答 奥山拓 産業観光課長

①八丈島そのもの、そこに存在する自然や文化、島民の方が観光資源である。②三者の役割分担が明確化されていないかった事。実行委員会・基盤整備部会で、検証・見直しをかけている。③現在実施している項目は一定の評価をしているが、柔軟な対応が必要なものもあり、計画は計画としても情勢の変化等も考慮しつつ修正をしながら進めていく必要がある。

再質問

縦割りの課題等に対し、町としても機構改革について検討するべきだと考えるがいかがか。

答 山越 整 総務課長

町としても組織の横断的な対応力を養う体制作りをしたいと考えている。

●こんな質問もしました

質問 八丈町への移入種の規制を

答 すべての移入種を駆除することは困難だが、普及啓発に努めていきたい

産業観光課でも企画運営できる体制を

答 産業観光課のみならず全体の底上げをしたい



広江才議員

◆所要時間 16分

質問 八丈島の過疎化と産業対策の方向性について尋ねる。島民の8000人割れは目前だが、町にも島民にも危機感が希薄である。人口減少は商工業を含め、多岐にわたり影響を及ぼし加速度的に過疎化を引き起こす。少数派だが、温暖な気候、東京からの利便性、豊富な水資源、様々な土壌、未利用地の活用など、我々が見過ごしているこの島の価値を知る人々もいる。かれらは、必要に応じ、独自の方法で来島者の受け入れと定住化を目指し模索

している。その方向性は我々と共有する。

そこで産業を中心に活気ある町づくりを提唱したい。観光産業もしくは農園芸、水産、畜産などを基幹産業として据えるのか、エネルギー関連などを含め、新たな産業を目指すのか、限られた財源の中で、優先順位を持つて示さなければならぬ。産業観光課の職員数では、個々の優秀さは認めても日常業務に追われ、考える時間は限られる。産業創出を念頭に置き、職員を増員し、支庁とも密接に連携を図りながら全国に赴き、産業および観光の実態を踏まえるのも方法である。町は行政改革に着手し、企画財政課だけでなく、産業観光課でも企画運営できる体制を求めたい。考える集団化が町政の活気ある町

づくりだと考える。

なお、八丈島は交通運賃を含め、流通コストが高い。東海汽船、全日空などに対して、固定観念を捨てる覚悟で一層の働きかけを望みたい。

答 山越 整 総務課長

これからの組織の考え方として、業務の細分化による課や係の新設等は、縦割りの弊害を生みやすい一面もあるため組織の横断的な対応力を養う体制づくりを考えている。職員ひとりひとりの集合体が組織であり、組織は生きていくという考え方のもと「職員自らが考え、自らが機会を作つて変えていく」という人材育成を図ることで産業観光課のみならず全体の底上げをしたい。

最近の格安航空会社の動向等は見過ごすことができないう話題であり、人や物の動きが経済基盤の強化の基本であることを念頭に、固定概念を捨てて関係機関への働きかけを積極的に取り組むべきだと考えている。

再質問

町の未来のため、5年、10年先を見据え、目標を立てて、それにあわせて考えなければならぬ。責任範囲を明確にするためにも必要だと考える。

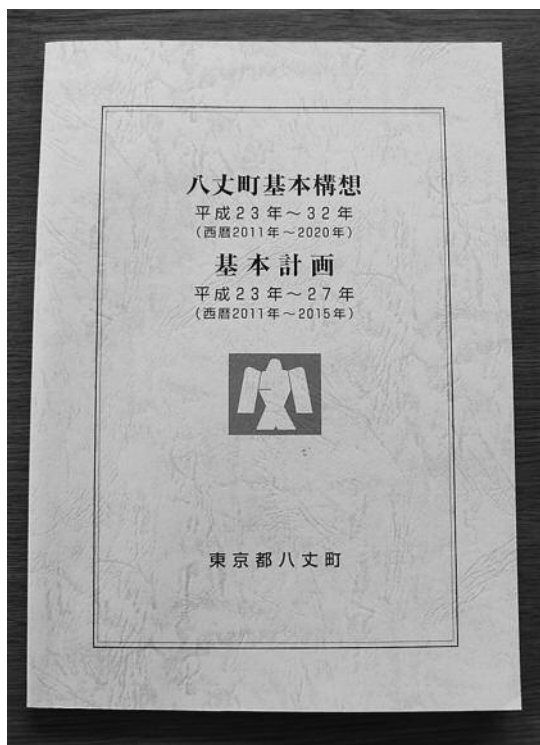
答 総務課長

昨年作成した八丈町基本構想・基本計画の中で、人口を8000人台で維持することを目標としている。目標に向かい各課が施策を展開していく事が5年先、10年先の計画となる。これを基に今後3年間の具体的

計画を立てており、受け持つのが各課となる。

組織としては、人員確保の方針を欠員補充式から、3、4年先の定年退職等の減員分を見越して職員を先取りする採用に変更した。

一時的であるが、増員分を債権関係強化、全国離島交流中学生野球大会、国体プロジェクトの担当に配置する。ここ数年においては減員が見込まれる分の先取り採用を行い、その後平準化することで組織的にも柔軟な対応を行う。



八丈町基本構想・基本計画

ふるさと村を利用した「民話の語り部」常設を

答 内部検討する



菊池 陸男 議員

◆所要時間 52分

と考える。

答 教育課長

①今後の事業は方言活動先進地域に追いついた段階で実施するのが適当。方言の日、採集カードの取り組みは勉強しながら検討する。

答 奥山拓 産業観光課長

②できるかどうか内部検討し、前向きに取り組む。

「内発的発展」の立場に立つ地場産業創出を

答 ソフト事業の取り組みを一步一歩進めることが必要

質問 昨年10月長野県

木島平村に行政視察に行った。木島平村では、「農を基軸とした持続可能な村づくり」を政治目標にしている。地域に対する愛着と誇りを醸成し、都市との共生を目指す「農村文明」の創生」に向けた取り組み（平成22年度「農村文明塾」設立）が進められている。

答 奥山拓 産業観光課長

①八丈島の生産品をいつ、どのような場所、どの団体が、どのように販売していくのかを組織化し、生産・加工・販売というソフト事業の取り組みを一步一歩着実に進めることが必要である。このことが内発的発展における産業創出と理解している。

答 佐藤誠 教育課長

②「八丈文明塾」の開設が八丈島にとって有効的の眼であるか、可能であるか研究を深める。今年8月木

島平村を訪問する予定であり、文明塾を開く経緯には大学との事前交流があったことが推察できるので、そのようなことを学んだうえで次の手を考えたい。

答 山下 奉也 町長

③基本構想を基に行っていく事が基本である。木島平村も参考になるが、現在の基本構想は、町独自で総合開発審議会の委員の方々、島の方々が計画策定しているのでこれを重要に考えている。八丈島の農業や漁業などの基幹産業を何とかしなければならぬとの思いが理念の根底にある。八丈島での「人・モノ・カネ」の動きが活発になることが「雇用を増やす原動力である」というのが基本的考えである。



木島平村の農村文明への取り組みを紹介したパンフレット

質問 ①学術的にも貴重で誇りある文化遺産「八丈語」復活の更なる新機軸を打ち出す考えはないか。②方言での「民話の語り部」の育成。観光対策の一環として、ふるさと村を利用した民話の常設はできないか。③各地で取り組まれている「方言の日」を制定して島ぐるみで方言の啓蒙、普及、継承活動に取り組む考えはないか。

答 福田 高峰 教育課長

①学校教育での取り組みが必要。24年度から研究指

定校制度を開始し、方言教育のカリキュラムを作成して実施体制を作る。今まで取り組んだ活動を継続実施し、基礎を固めた上でその先の展望として検討する。②人材育成、人材活用の問題もあり、産業観光課と相談しながら検討する。③方言への取り組みは2年ほど経過したところで、基礎を作っている段階。早く方言の日を制定した方が良いか、方言に対する高まり状況を見定めた上で制定した方が良いのか検討する。

再質問

①地域で取り組んでいる自治体から学び、方言の日を制定するべき。いつ、どこで、誰にその方言を聞いたのか、島ぐるみの協力で採集カードを作るべき。②「民話の語り部」常設は、産業観光課の所管

再質問 ①地域で取り組んでいる自治体から学び、方言の日を制定するべき。いつ、どこで、誰にその方言を聞いたのか、島ぐるみの協力で採集カードを作るべき。②「民話の語り部」常設は、産業観光課の所管

第1回定例会の質疑から

汲み取り便槽における 処理手数料が有料になるが：

奥山幸子議員 し尿浄化槽汚泥について、4月1日より汲み取り便槽の処理手数料が、今まで0円だったものが1割1円となる（3年後3円になる予定）が納得していない方も多く、説明が十分なされていない。説明会を行っても参加者が少ない。汲み取り依頼をしているすべての世帯に対して説明がなされるべき。

設定は高すぎる。住民への周知期間が短すぎる。本来条例を9月、12月議会に図り、可決されてから周知期間を持ち住民に説明すべきである。また、計量方法はどうか。

企画財政課主幹 過度な負担を避けるため、合併浄化槽家庭の使用料、保守料を基準に考え限度額3万3千円を設定した。計量は汚泥再生処理センターの計量機で算出する。

和牛貸付け事業に対し、より一層の広報をし、

和牛貸付け事業に対し、より一層の広報をし、

沖山宗春議員

和牛貸付け事業について昨年広報で募集を実施したが、



富士牧場は大きな観光資源であり、内容を充実させるためにも何回も募集をかけて多くのオーナーを募るべき。



山口英治議員

水道料金から考察して

1立方メートル3千円（3年後）の料金

佐藤真一住民課長 伐採木処理は、受託業者と継続、および単価について打ち合わせを実施。その結果同様に進めることになった。クリーンセンターは、土曜日

山下崇議員 伐採木等の処理は現行通り続けていくのか、また、クリーンセンターの維持管理を行うにあたり土曜日を休みにし、メンテナンスに充てることの検討はどうなったのか。施設の改修を続けていくのか、建替えを行うのかの方向性は。

伐採木処理とクリーンセンターの今後は

奥山拓産業観光課長 平成23年度、畜産農家限定を「一般の方も飼える」「施設を持たない方も年間を通して牧場に預託できる」「期間を5年から3年に短縮する」この3点について要綱等を改正して応募しやすいように整備した。採算から見ると微妙な状況であるが事業の取り組みを宣伝したい。

全国離島交流中学生野球大会、国体の宿泊先 の確保を

水野佳子議員 観光協会事務局は3名体制であり、人員が不足していると聞いたが町の認識は。また、今年大会、来年は国体開催を予定しており町をあげて成功させるべきであるが、宿泊施設は何名受け入れ可能であるか。宿泊施設が大幅に足りないと思うが、町の対応策は。

大瀧浦園地の電柱撤去を

岩崎由美、菊池睦男、山口英治、奥山博文、長戸路義郎各議員 大瀧浦園地に電源を確保するために電柱が立った。あのエリア一帯は電柱が一切ないという事で非常に景観が良かった。電柱が立つまでの経緯と景観上の問題で町との協議があったのか。景観を著しく損ねるとの理由から、過去、南原に電柱を立てさせなかった経過がある。あの場所のロケーションは町の財産である

産業観光課長 観光協会は4月以降、ゴールデンウィークまでは臨時的扱いの人員を含め6名、最終的には5名体制で運用すると伺っている。全国離島交流中学生野球大会は8月27日から約1週間を予定している。観光協会の宿泊部会と調整



大瀧浦の電柱

り、東京電力と相談して地下埋設にするべき。

持丸孝松副町長 町も知らなかった。支庁より7月頃要請があり仕事は完了している。東京電力、支庁に以前から景観の関係で町も十分に配慮していたと話したが、観光協会からも要望があり、町に連絡がとれないまま発注に至っているのが現状。撤去をお願いしたが、法律的なことをクリアして実施しているので立てたものを使わせてほしいとのこと。来年度において色を塗る、周りを植え木で囲むなど配慮的な対応を相談して行く。

山口英治議員 観光協会は町から多額の予算を貰っている。町に要望した後、町から支庁に要望するべきことである。支庁も町に連絡すべきである。支庁に対して元に戻すように要請を。

産業観光課長 今後、行政官庁機関に対する要望につ

いては連絡を取り、文書が必要であれば町が文書を確認することを観光協会長と話し合う。

武道団体の合宿受け入れ整備を

菊池良議員



有名私立大学のトップレベルにある女子柔道部から八丈で合宿を行

いたいとの打診があった。中学校の施設を見たが、現状の畳では一線級の選手が利用するのは難しいとのことである。八丈高校の格技棟を利用したいと校長先生に話し、実施可能な方向で進んでいる。今後とも同様の合宿の要望依頼が来る可能性はある。来年度から武道が必修になるとも聞いている。畳等を含めた受け入れ態勢の整備を。

福田高峰教育課長 中学校の授業で柔道、剣道が開始されるので、畳他、利用を含めて不足分は予算措置を行って行きたい。そのような

ことで柔道部等いろいろな団体の合宿促進を図ってきたい。

八高生通学におけるバス料金値下げを

奥山博文、山口英治、長戸路義郎、菊池睦男各議員



八丈高校の生徒が通学に利用する際のバス料金(定期券代)

を大幅に減額して、通学バスとして利用できる環境を作れないか。条例を改正するなどの対応を。他自治体の状況を調査して。国交省の地域公共交通の維持確保のための交付金などのメニューが適用できないか研究すべき。

公営企業管理者土屋久、および担当者 国の許認可を取らなければならない。監査もあるので、その中で方策がないか相談したい。

●その他

- ◎ 南原の風力発電、故障期間中の影響は
- ◎ 廃棄物運搬処理委託料増額補正は、スチール関係ゴミの増加分が
- ◎ バイオトイレ事業はどこに作るうとして、なぜ取りやめたのか
- ◎ 未登記道路対策として、職員の中に測量士を養成する対応を
- ◎ ふるさと村のバリアフリー化を
- ◎ 標高と生徒数から、津波噴火時の大賀郷中学校・八丈高校のさらなる避難場所確保を
- ◎ 緊急通報システムの町営住宅を含めた体制強化を
- ◎ 介護保険を利用していない高齢者の方に報奨金を出す制度を考えては
- ◎ 永郷地区の携帯電話不感地域解消問題の現況は
- ◎ 八丈島フィルムコミッションの事業実績は
- ◎ 野ヤギ対策事業は終息に向かっているのか、今後の見通しは
- ◎ 町・支庁で植栽し、十分に成長した杉を利用する考えは
- ◎ 榎立踊り保存会への補助を
- ◎ 大賀郷中学校の夜間照明設置の見込みは
- ◎ 学校給食費の見直しをどのように図ったのか
- ◎ 末吉小学校跡地の利用と末吉地区の発展について町の展望は
- ◎ 宇喜多秀家資料館建設の土地を提案する
- ◎ 町で借りている電気自動車2台の状況は
- ◎ 島外医療機関通院交通費補助金の申請手続きの簡素化と周知徹底を
- ◎ 基金は全て利息が付かない預金にするのではなく、利息が付く預金への見直しを
- ◎ 落成式を迎える汚泥再生処理センターのピロウと南原スポーツ公園のヤシが枯れている。植え替えなどの対応を
- ◎ フリージアまつり、ふるさと村における対応が悪いなども質問しました。

町ナビ

南原スポーツ公園野球場が5月3日にオープンしたが、改修工事中の富士野球場も外野の人工芝の張り替え工事がほぼ完了した＝写真。2つの野球場を使用して、今年夏の全国離島交流中学生野球大会、そして来年の国体・高等学校軟式野球大会と、大きなイベントが開催される。



3月定例会主な議決事項

- 八丈町職員懲戒審査委員会委員及び補充員の任命の同意について
 - 特別職の職員で非常勤のものものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
ほか条例制定・改正16件
 - 専決処分事項の報告及び承認について
(平成23年度八丈町介護保険特別会計補正予算)
 - 平成23年度八丈町一般会計補正予算
ほか補正予算13件
 - 東京都市町村議会議員公務災害補償等組合を組織する地方公共団体の数の増加及び東京都市町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更について
ほか規約変更2件
 - 桎立中之郷線道路改良工事請負契約の変更
ほか契約の変更2件
 - 平成24年度八丈町一般会計予算
ほか予算8件
 - 第32回オリンピック競技大会及び第16回パラリンピック競技大会の東京招致に関する決議議員の派遣承認について
(平成24年度東京都町村議会議員講演会)
ほか3件
 - 損害賠償の額の決定について
 - 神湊漁港漁港区域内の公有水面埋立てについて
 - 八丈町辺地総合整備計画の策定について
- #### 協議会開催
- 経済企業委員協議会 平成24年1月27日開催
 - 観光振興実行委員会の予算配分について
院外処方について
 - 全員協議会 平成24年2月13日開催
 - 平成24年度事業計画について
 - 総務文教委員協議会 平成24年2月29日開催
 - 八丈町第5期介護保険事業計画について

編集後記

東日本大震災の発災から1年が経過し、日本の景色も大きく変わっています。

八丈町では、発災直後から支援策を打ち出し平成24年度予算でも昨年度並みの予算が可決されました。

未だに収束の見込みの立たない福島県の原因の事情を考えると、非常に有意義な政策です。

日本全体で確実に歩みを進める一翼となるよう、八丈町も一丸となって取り組むべきでしょう。
山下 崇

発行人 八丈町議会議長 小澤一美

編集 議会だより編集委員会 委員 山下崇 岩崎由美 水野佳子 奥山幸子

〒100-1498 東京都八丈島八丈町大賀郷2345-1 tel 04996-2-1121 fax 04996-2-5575